

令和 6 年度予算の概要

1. 会計別歳入歳出予算の規模（別表 1 参照）

一般会計 365 億 9,114 万 9 千円

（前年度比較 7,456 万 2 千円、0.2%増）

特別会計総額（4 会計） 206 億 4,036 万 5 千円

（前年度比較 5 億 2,092 万 6 千円、2.6%増）

企業会計総額（3 会計） 194 億 1,836 万 5 千円

（前年度比較 7 億 1,832 万 9 千円、3.8%増）

全会計予算総額 766 億 4,987 万 9 千円

（前年度比較 13 億 1,381 万 7 千円、1.7%増）

《注：企業会計の予算総額は、収益的支出と資本的支出の合計額とした。》

2. 一般会計予算の概要

令和 6 年度の予算編成にあたりましては、まちづくりの方針である「子育てしやすいまちづくり」、「貝塚ならではのまちづくり」、「にぎわいのあるまちづくり」、「いつまでも元気で、安全安心に暮らせるまちづくり」を推進し、本市が目指す「魅力かがやき 未来へつなぐまち 貝塚」を実現するため、南海二色浜駅周辺整備や公共交通の再編、

地球温暖化対策の推進、三館等合同施設整備など、未来を見据えた事業に重点配分を行う一方で、行財政改革を着実に実行し、財政の健全性の確保と限りある財源を効率的・効果的に配分することを目的として編成した次第であります。

一般会計の予算総額は、365 億 9,114 万 9 千円で、前年度に比較して 0.2%の増加となっております。これは、主に、岸和田市貝塚市斎場整備事業費が減少したこと、及び東貝塚駅前広場アクセス道路等整備事業費が皆減となったことにより投資的経費が減少したものの、障害者自立支援給付事業費や児童手当給付事業費の増加により扶助費が増加したことによるものであります。

それでは、予算の主な内容につきまして、順次ご説明いたします。

① 歳入（別表 2 参照）

それでは、まず歳入についてご説明いたします。

市税は、113 億 1,979 万 3 千円で、前年度に比較して 3 億 3,786 万 5 千円、率にして 2.9%の減少となっておりますが、これは、主に、国の定額減税に伴い個人市民税が減少したことによるものであります。

地方譲与税は、1 億 9,111 万 2 千円で、前年度に比較して 1,755 万

円、率にして 10.1%の増加となっております。

利子割交付金は、870 万円で、前年度に比較して 50 万円、率にして 6.1%の増加となっております。

配当割交付金は、7,700 万円で、前年度と比較して 4,500 万円、率にして 36.9%の減少となっております。

株式等譲渡所得割交付金は、6,500 万円で、前年度に比較して 2,900 万円、率にして 80.6%の増加となっております。

法人事業税交付金は、2 億 3,500 万円で、前年度に比較して 3,900 万円、率にして 19.9%の増加となっております。

地方消費税交付金は、20 億 1,000 万円で、前年度に比較して 1 億 6,100 万円、率にして 7.4%の減少となっております。

環境性能割交付金は、6,600 万円で、前年度に比較して 3,900 万円、率にして 144.4%の増加となっております。

地方特例交付金は、4 億 3,367 万 2 千円で、前年度に比較して 3 億 5,467 万 2 千円、率にして 449.0%の増加となっておりますが、これは、主に、定額減税に伴う個人市民税の減少額補てんによるものです。

地方交付税は、国の地方財政対策等を勘案して 62 億 2,269 万 7 千円を計上し、前年度に比較して 2 億 2,520 万 8 千円、率にして 3.8%の増加となっております。

交通安全対策特別交付金は、1,131 万円で、前年度に比較して 156 万円、率にして 12.1%の減少となっております。

分担金及び負担金は、1 億 1,636 万 2 千円で、前年度に比較して 531 万 1 千円、率にして 4.4%の減少となっております。

使用料及び手数料は、3 億 9,391 万 6 千円で、前年度に比較して 112 万 5 千円、率にして 0.3%の増加となっております。

国庫支出金は、72 億 3,131 万 4 千円で、前年度に比較して 4 億 2,973 万 2 千円、率にして 6.3%の増加となっておりますが、これは、主に、社会資本整備総合交付金や道路メンテナンス事業補助金が減少したものの、児童手当負担金や保育所等整備交付金が増加したこと、及び重層的支援体制整備事業交付金が皆増となったことによるものであります。

府支出金は、30 億 5,035 万 4 千円で、前年度に比較して 9,016 万円、率にして 3.0%の増加となっておりますが、これは、主に、土地改良事業費補助金が減少したものの、障害者自立支援給付費負担金や障害児通所支援負担金が増加したことによるものであります。

財産収入は、3,543 万 7 千円で、前年度に比較して 221 万 6 千円、率にして 6.7%の増加となっております。

寄附金は、7 億 916 万 7 千円で、前年度に比較して 1,108 万 3 千円、率にして 1.5%の減少となっております。

繰入金は、23 億 6,675 万 4 千円で、前年度に比較して 3 億 2,314 万円、率にして 15.8%の増加となっておりますが、これは、主に、公共施設等整備基金からの繰入金が増減となったものの、財政調整基金からの繰入金が増加したこと、及び職員退職手当基金からの繰入金が増加となったことによるものであります。

繰越金は、10 万円で、前年度と同額を計上しております。

諸収入は、7 億 6,038 万 3 千円で、前年度に比較して 8,145 万 6 千円、率にして 12.0%の増加となっておりますが、これは、主に、デジタル基盤改革支援補助金やボートレース事業収入が増加したことによるものであります。

市債は、12 億 8,707 万 8 千円で、前年度に比較して 9 億 9,637 万 8 千円、率にして 43.6%の減少となっておりますが、これは、主に、社会体育施設整備事業債が増加したものの、岸和田市貝塚市斎場施設整備事業債や学校施設整備事業債（小学校）が減少したこと、及び J R 東貝塚駅バリアフリー化設備整備事業債が皆減となったことによるものであります。

② 歳出の目的別（別表 3 参照）

次に、歳出について目的別にご説明いたします。

第1款 議会費

議会費の予算総額は、2億5,470万3千円で、前年度に比較して164万5千円、率にして0.6%の減少となっております。

第2款 総務費

総務費の予算総額は、41億6,489万8千円で、前年度に比較して1億4,620万7千円、率にして3.4%の減少となっておりますが、これは、主に、大阪・関西万博参画事業費や基幹系システム標準化対応事業費が増加したものの、職員退職手当基金積立事業費や市議会議員一般選挙事業費が皆減となったことによるものであります。

第3款 民生費

民生費の予算総額は、182億1,091万4千円で、前年度に比較して15億3,024万3千円、率にして9.2%の増加となっておりますが、これは、主に、すくすく子ども館施設等整備事業費が皆減となったものの、障害者自立支援給付事業費や児童手当給付事業費、民間保育所等整備事業費が増加したことによるものであります。

第4款 衛生費

衛生費の予算総額は、33億1,798万9千円で、前年度に比較して

10 億 6,859 万 7 千円、率にして 24.4%の減少となっておりますが、これは、主に、岸和田市貝塚市清掃施設組合負担金事業費が増加したものの、岸和田市貝塚市斎場整備事業費や保健・福祉合同庁舎整備事業費が減少したことによるものであります。

第 5 款 労働費

労働費の予算総額は、2,120 万 5 千円で、前年度に比較して 276 万 1 千円、率にして 11.5%の減少となっております。

第 6 款 農林水産業費

農林水産業費の予算総額は、2 億 3,422 万 4 千円で、前年度に比較して 4,010 万 8 千円、率にして 14.6%の減少となっておりますが、これは、主に、新規就農総合支援事業費が増加したものの、土地改良施設整備事業費が減少したことによるものであります。

第 7 款 商工費

商工費の予算総額は、2 億 4,339 万円で、前年度に比較して 1,106 万 1 千円、率にして 4.3%の減少となっております。

第8款 土木費

土木費の予算総額は、31 億 6,734 万 5 千円で、前年度に比較して 2 億 2,767 万 4 千円、率にして 6.7%の減少となっておりますが、これは、主に、南海二色浜駅総合改善事業費が皆増となったものの、東貝塚駅前広場アクセス道路等整備事業費や J R 東貝塚駅バリアフリー化整備推進事業費が皆減となったことによるものであります。

第9款 消防費

消防費の予算総額は、12 億 2,110 万 2 千円で、前年度に比較して 3,426 万 3 千円、率にして 2.7%の減少となっておりますが、これは、主に、消防庁舎施設整備事業費や消防団施設整備事業費が増加したものの、防災備蓄拠点倉庫整備事業費が減少したことによるものであります。

第10款 教育費

教育費の予算総額は、29 億 736 万 6 千円で、前年度に比較して 7,210 万 6 千円、率にして 2.4%の減少となっておりますが、これは、主に、体育施設整備事業や図書館維持・管理事業（臨時）が増加したものの、義務教育学校設置にかかる小学校管理事業費（臨時）が減少したことによるものであります。

第 11 款 公債費

公債費の予算総額は、28 億 3,015 万 9 千円で、前年度に比較して 1 億 4,576 万円、率にして 5.4%の増加となっております。

第 12 款 諸支出金

諸支出金の予算総額は、785 万 4 千円で、前年度に比較して 298 万 1 千円、率にして 61.2%の増加となっております。

第 13 款 予備費

予備費の予算総額は、1,000 万円で、前年度と同額を計上しております。

③ 歳出の性質別（別表 4 参照）

次に、歳出について性質別にご説明いたします。

人件費につきましては、前年度に比較して 2 億 4,635 万 9 千円の増加となっておりますが、これは、主に、退職手当が減少したものの、給料や職員手当等が増加したことによるものであります。

物件費につきましては、前年度に比較して 3 億 5,587 万円の増加となっておりますが、これは、主に、重層的支援体制整備事業費が皆増となったこと、及び橋本地区まちづくり事業費が増加したことによる

ものであります。

維持補修費につきましては、前年度に比較して 2,037 万 5 千円の増加となっております。

扶助費につきましては、前年度に比較して 5 億 6,138 万 4 千円の増加となっておりますが、これは、主に、障害者自立支援給付事業費や児童手当給付事業費が増加したことによるものであります。

補助費等につきましては、前年度に比較して 1 億 7,455 万 7 千円の増加となっておりますが、これは、主に、市制施行 80 周年記念事業費が皆減となったものの、南海二色浜駅総合改善事業費が皆増となったこと、及び岸和田市貝塚市清掃施設組合負担金が増加したことによるものであります。

投資的経費につきましては、前年度に比較して 13 億 8,921 万円の減少となっておりますが、これは、主に、民間保育所等整備事業費が増加したものの、岸和田市貝塚市斎場整備事業費が減少したこと、及び東貝塚駅前広場アクセス道路等整備事業費や J R 東貝塚駅バリアフリー化整備推進事業費が皆減となったことによるものであります。

公債費につきましては、前年度に比較して 1 億 4,576 万円の増加となっております。

積立金につきましては、前年度に比較して 1 億 4,031 万 7 千円の減少となっておりますが、これは、主に、職員退職手当基金積立事業費

が皆減となったことによるものであります。

繰出金につきましては、前年度に比較して 9,828 万 4 千円の増加となっておりますが、これは、主に、後期高齢者医療制度事業や国民健康保険事業への繰出金が増加したことによるものであります。

貸付金につきましては、前年度に比較して 150 万円の増加となっております。

予備費につきましては、前年度と同額を計上しております。

3. 国民健康保険事業特別会計予算の概要

予算総額は、100 億 6,351 万 1 千円で、前年度に比較して 3,762 万 9 千円、率にして 0.4%の増加となっておりますが、これは、保険給付費等が増加したことによるものであります。

4. 財産区特別会計予算の概要

予算総額は、9 億 4,913 万 6 千円で、前年度に比較して 2,418 万 7 千円、率にして 2.6%の増加となっております。

5. 介護保険事業特別会計予算の概要

予算総額は、81 億 2,281 万円で、前年度に比較して 2 億 8,899 万 2 千円、率にして 3.7%の増加となっておりますが、これは保険給付

費が増加したことによるものであります。

6. 後期高齢者医療事業特別会計予算の概要

予算総額は、15 億 490 万 8 千円で、前年度に比較して 1 億 7,011 万 8 千円、率にして 12.7%の増加となっておりますが、これは、被保険者の増加により後期高齢者医療広域連合納付金等が増加したことによるものであります。

7. 水道事業会計予算の概要

収益的収支につきましては、収入において、給水収益の減少を見込むものの、受託工事収益の増加等により、前年度と比較して 2,422 万円、率にして 1.2%の増加を見込み、支出では、受水費や減価償却費の減少を見込むものの、人件費や委託料等の増加により、前年度と比較して 7,812 万 8 千円、率にして 3.6%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は 1 億 4,351 万 2 千円の赤字となり、前年度と比較して 5,390 万 8 千円、赤字額が増加する見込みであります。

資本的収支につきましては、収入において、工事納付金の減少を見込むものの、企業債の増加により、前年度と比較して 3,732 万 5 千円、率にして 11.8%の増加を見込み、支出では、企業債償還金、整備事業費の増加に伴う建設改良費の増加のほか、効率的な資金運用を行い、

収益となる受取利息の増加を図るため、投資有価証券の購入に1億円を計上したことにより、前年度と比較して1億6,872万4千円、率にして17.9%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、7億5,750万1千円の不足となり、前年度と比較して1億3,139万9千円不足額が増加する見込みであります。

8. 下水道事業会計予算の概要

収益的収支につきましては、収入において、下水道使用料等の減少を見込むものの、雨水処理負担金、他会計補助金等の増加により、前年度と比較して4,644万2千円、率にして1.9%の増加を見込み、支出では、業務費、企業債利息等の減少を見込むものの、管渠費、減価償却費等の増加により、前年度と比較して3,698万6千円、率にして1.5%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、1,506万9千円の黒字となり、前年度と比較して945万6千円、黒字額が増加する見込みであります。

資本的収支につきましては、収入において、企業債、他会計補助金の増加を見込むものの、他会計出資金、国庫補助金、受益者負担金の減少により、前年度と比較して2,146万2千円、率にして0.9%の減少を見込み、支出では、管路建設費、管路改良費の増加を見込むものの、ポンプ場建設改良費、流域下水道建設負担金、企業債償還金等の

減少により、前年度と比較して 5,728 万 1 千円、率にして 1.7%の減少を見込んでおります。以上により、収支差引額は、9 億 1,783 万 7 千円の不足となり、前年度と比較して 3,581 万 9 千円、不足額が減少する見込みであります。

9. 病院事業会計予算の概要

収益的収支につきましては、収入において、手術支援ロボット、高度治療室（HCU）等による良質な医療の提供及び地域医療連携の強化により、入院患者数が増加することを見込み、病院全体の病床利用率を 82.8%と想定し、入院収益は、前年度と比較して 7 億 3,565 万 6 千円、率にして 17.5%の増加を見込んでおります。外来収益については、前年度と比較して 438 万 6 千円、率にして 0.1%の増加を見込んでおります。収入全体では、前年度と比較して 7 億 8,410 万 7 千円、率にして 9.7%の増加を見込んでおります。なお、新型コロナウイルス感染症患者等受入医療機関に対する空床補償補助金につきましては、補助金収入として見込んでおりません。

支出では、医師や看護師の増員、抗がん剤治療等の増加に伴う材料費の増加、委託料等の経費の増加等により、前年度と比較して 4 億 8,493 万 8 千円、率にして 5.8%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、1,209 万 8 千円の黒字となり、前年度と比較し

て2億9,916万9千円、収支が改善する見込みであります。

資本的収支につきましては、収入において、建設改良費における起債対象事業の増加に伴い、企業債が増加すること等により、前年度と比較して6,022万5千円、率にして7.0%の増加を見込み、支出では、建設改良費は減少したものの、企業債償還金の増加により前年度と比較して683万4千円、率にして0.5%の増加を見込んでおります。

以上により、収支差引額は、3億7,610万3千円の不足となり、前年度と比較して5,339万1千円、不足額が減少する見込みであります。